

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分  
 【発行日】平成 26 年 10 月 9 日 (2014.10.9)

【公開番号】特開 2013-51164 (P2013-51164A)  
 【公開日】平成 25 年 3 月 14 日 (2013.3.14)  
 【年通号数】公開・登録公報 2013-013  
 【出願番号】特願 2011-189223 (P2011-189223)  
 【国際特許分類】

H 0 1 J 35/08 (2006.01)

【F I】

H 0 1 J	35/08	F
H 0 1 J	35/08	B
H 0 1 J	35/08	C
H 0 1 J	35/08	D

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 8 月 22 日 (2014.8.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

上記課題を解決するために、本発明の X 線発生装置は、周囲を電子通過路形成部材で囲むことにより形成された電子通過路を有し、

前記電子通過路を通過した電子を透過型ターゲットに照射して X 線を発生させる透過型 X 線発生装置であって、

前記電子通過路内に、前記透過型ターゲットで反射された電子の照射により X 線を生じる副 X 線発生面を有し、

前記副 X 線発生面と前記透過型ターゲットとは、前記透過型ターゲットに直接電子が照射されることにより発生する X 線と、前記副 X 線発生面に前記透過型ターゲットで反射された電子が照射されることにより発生する X 線とが、ともに外部に放射されるように配置され、

前記電子通過路形成部材の材料の原子番号が、前記透過型ターゲットの材料の原子番号よりも大きいことを特徴とする。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

周囲を電子通過路形成部材で囲むことにより形成された電子通過路を有し、

前記電子通過路を通過した電子を透過型ターゲットに照射して X 線を発生させる透過型 X 線発生装置であって、

前記電子通過路内に、前記透過型ターゲットで反射された電子の照射により X 線を生じる副 X 線発生面を有し、

前記副 X 線発生面と前記透過型ターゲットとは、前記透過型ターゲットに直接電子が照射されることにより発生する X 線と、前記副 X 線発生面に前記透過型ターゲットで反射された電子が照射されることにより発生する X 線とが、ともに外部に放射されるように配置

され、

前記電子通過路形成部材の材料の原子番号が、前記透過型ターゲットの材料の原子番号よりも大きいことを特徴とする透過型 X 線発生装置。